

統合データベースプロジェクトの経緯と課題

2009年1月19日

「統合データベースプロジェクト」研究運営委員会(第6回)

ライフサイエンス統合データベースセンター(DBCLS)
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構(ROIS)

これまでの経緯(1)

平成17年度～平成19年度

内閣府連携施策群 科学技術振興調整費「ライフサイエンス分野のデータベースの統合化に関する調査研究」

平成18年5月

文科省ライフサイエンス委員会DB整備戦略作業部会報告書
「我が国におけるライフサイエンス分野の データベース整備戦略のあり方について」

平成18年9月

ライフサイエンス分野の統合データベース整備事業(3億円)
(略称 統合データベースプロジェクト)(公募)
情報・システム研究機構を中核としたチームが受託

平成19年4月

情報・システム研究機構に
ライフサイエンス統合データベースセンター(DBCLS)設置

平成19年4月

統合データベースプロジェクト(公募)(～22年度までの4年間)(16億円)
中核機関(1件)、分担機関(3件)

平成19年10月

補完課題(4件)(A型3件、B型1件)

これまでの経緯(2)

平成20年4月

予算減(11億円に)

平成20年7月

文科省「統合データベースプロジェクト」中間評価委員会報告

順調に進行、中核機関がイニシアティブ発揮せよ、より緊密な連携を

平成20年12月～

内閣府ライフサイエンスPT統合DBタスクフォース

平成21年1月

文科省ライフサイエンス委員会

ライフサイエンス情報基盤整備作業部会作業部会報告書

「ライフサイエンスデータベースの統合・維持・運用の在り方」

平成23年3月

統合データベースプロジェクト終了予定

課題

- ・中核機関のイニシアティブがとりにくい体制
 - 運営体制や個別のミッションの見直し
- ・受け入れや共有化の推進の裏付けなし
 - データ共有化、公開提供のためのルール作り
- ・ミッションと予算、権限、体制とのアンバランス
 - 生命科学の急激な進展への柔軟な対応の担保
- ・プロジェクトがあと2年で終了
 - 恒久化のための体制、4省連携体制の構築
- ・データベースはどこまで国が支援すべきか？
 - 科学と産業振興のための国家的基盤作り